

元気いっぱいかわらまち ーサイエンスによる地域貢献ー

代表者 大西 弘訓 (大学院教育学研究科 1 年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、夏休み中に高松天満屋や香川大学ミッドプラザを拠点として、私たち大学生及び教員がボランティアで体験学習の形で来場の子供達や保護者の方々にサイエンスの普及に貢献し、瓦町を活性化するという目的で行いました。

2. 実施期間 (実施日)

平成 24 年 8 月 24 日 から 平成 24 年 8 月 25 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

イベントの準備やイベント当日に学生ボランティア各自の都合で、参加できる時間帯と参加できない時間帯があるため、各自の入れる時間帯を聞いて、それぞれの都合の時間帯をもとにこのようなシフトを作りました。入れ替えのあるようなシフト形でできるだけ多くの学生ボランティアを呼び込みました。

会場はブース会場天満屋 9F と景品引換会場香川大学ミッドプラザとなります。ブース会場には 11 の体験ブースと二つの展示ブースを設置しました。

イベント当日に 25 日 小学生以下 258 人 中学生以上 220 人 26 日 小学生以下 365 人 中学生以上 323 人 が来場しました。

子供たちの中で一番人気があったのが「カaramel焼きを作ってみよう」と「塩水で燃料電池を作ってみよう」と「お菓子なおくすり」の 3 つのブースでした。その中でカaramel焼きは出来上がってから食べてもいいので、子供たちはとても頑張っていて、最後

ブース別学生出勤簿
26日(日)

ブース番号	ブース責任者	学生氏名	開始時間	終了時間	備考
1 川浪		内藤まどか			
		原内勇樹	10:00	17:30	7.5
2 塚本		高田 麻紀			
		塚本 靖之	9:40	17:30	7.8
3 東屋		坂井貴鈺	12:30	17:30	5
		石田馨	12:30	17:30	5
		植村優貴	12:30	17:30	5
		遠山愛美	9:00	17:30	8.5
		村山彩子	8:50	17:30	8.6
		高木仁実	8:40	17:30	8.8
		高野夏実	8:40	17:30	8.8
		野田愛果	8:50	17:30	8.6
4 片桐		安元あい	8:50	17:30	8.6
		井手迫達也	8:40	13:20	4.6
		北村貴大	8:40	13:20	4.6
5 古本		岡林修平			
		西本 潔司	9:30	17:00	7.5
		井上 涼子	9:30	17:00	7.5

に自分の成果を楽しんでいました。砂糖水を加熱する実験なので、液が沸騰して飛び出す恐れもありますので、小さい子供たちにはこのようにゴーグルをかけて実験するようにしました。

今回のコラボレーション企業は去年にも大変お世話になった株式会社トクヤマにお願いしました。小学生などの子供たち対象の実験なので、誰が実験を行っても成功するように内容を吟味しました。今回は、カルメラ焼きと燃料電池についてのブースを出し、どの子供も成功していました。なるべく簡略化した説明をポスターなどに記して、質問があるとポスターを利用して子供たち解説しました。

また、アンケートを行いその結果について以下に示します。

小学生用アンケート結果 集計結果：35枚

「^{ゆめかがく}夢化学21 in Kagawa-^{てん}おもしろワクワクサイエンス展」アンケート

1. あなたは 小学校の（ ）年生 （おとこ 60%・おんな 40%）

幼稚園：6%、1年生：17%、2年生 23%、3年生：13%、4年生：23%、5年生：19%、6年生：10%

2. どこから来ましたか？

高松市内：83%、坂出市：6%、さぬき市：3%、善通寺市：3%、県外：5%（大阪、岡山）

3. サイエンス展^{てん}のことは誰から^{だれ}聞きましたか？

学校の先生から：49%、家の人から：29%、お友達から：6%、その他：16%

4. サイエンス展^{てん}はおもしろかったですか？

とてもおもしろかった。：77% おもしろかった。：20%

あまりおもしろくなかった。：3% 4. ぜんぜんおもしろくなかった。0%

5. サイエンス展^{てん}はわかりやすかったですか？

とてもわかりやすかった。：57% わかりやすかった。：37%

すこしむつかしかった。：3% とてもむつかしかった。：3%

6. おもしろかったブースの^{ばんごう}番号を書いて下さい。（上位3件）

3、9、1

7. ^{かんそう}感想があれば、書いて下さい。（代表的な意見）

- ・またイベントがあれば参加したい。
- ・楽しかった。
- ・スライムを作りたいけどなかったので残念だった。
- ・化学のことがよくわかった。また来てみたいです。

中学生・高校生・大学生・一般用アンケート結果 集計結果：35 枚

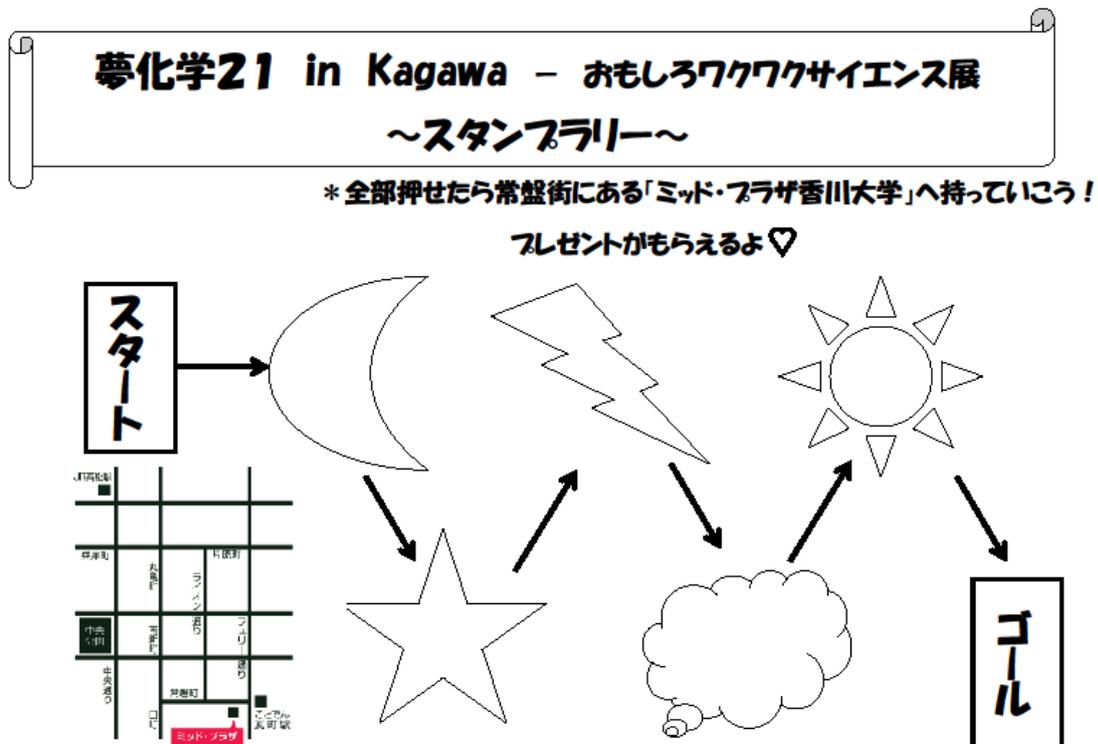
「^{ゆめかがく}夢化学21 in Kagawa-おもしろワクワクサイエンス展^{てん}」アンケート

1. 性別：男 31%・女 69%
年齢：10代 6%、20代 3%、30代 42%、40代 37%、50代 3%、
60代 6%、70代以上 3%
職業：中学生 5% 高校生 0% 大学生・院生 0%
会社員 29% 教員 3% 公務員 5% 自営 9% 主婦 46% その他 0%
2. どこから来ましたか？
高松市内：91% さぬき市：3% 坂出市：3% 善通寺市：3%
3. サイエンス展をどこで知りましたか？
チラシ：37% 学校：34% 高松天満屋に来て知った：17% その他：12%
4. サイエンス展はおもしろかったですか？
とてもおもしろかった。：66% おもしろかった。：31%
あまりおもしろくなかった。：0% ぜんぜんおもしろくなかった。：3%
5. サイエンス展はわかりやすかったですか？
とてもわかりやすかった。：49% わかりやすかった。：43%
すこしむつかしかった。：8% とてもむつかしかった。0%
6. おもしろかったブースの番号を書いて下さい。（上位3件）
3、10、9
7. 何かあれば、自由にお書き下さい。（代表的な意見）
 - ・またして欲しいです。
 - ・もっと規模を大きくして開催して欲しい。
 - ・前回も来ました。今後も続けて欲しい。
 - ・去年同様のブースがあると思ってきたのがっかりした。
 - ・子供が夢中になるような実験がたくさんあって本当に楽しんでいるんだなあと思いました。
 - ・毎年孫と来ています。楽しみに孫も待っていました。
 - ・DNAを取り出す実験のあと、DNAの姿や役割をわかりやすく説明してもらえるとよかったと思う。
 - ・パネルの字が小さいブースがあったので大きくしてもらいたらもっとわかりやすかったです。
 - ・微妙に内容は変えてくれていたけど夏休みの宿題になるものがなくて役に立ちませんでした。
 - ・プレゼントの受取場所を天満屋の外にするのはやめて欲しい。ほとんどの人が迷っていた。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、トキワ街は丸亀町商店街と比べて、暗く人通りも少ない、シャッターを閉めている店も多く見られるようなことは去年の天満屋サイエンス展でも気づき、トキワ街地域に元気を与えようと工夫したいと考えて、今回のイベントにスタンプラリーを実施するようにしました。スタンプラリー用の台紙にスタンプをいっぱい貯めたら、香川大学ミッドプラザで景品を交換するような形で、お客さんをトキワ街までも呼び込もうと考えました。プレゼントの内容は、理科の実験で使用する器具の一部です。その時の対応で、保護者の方からトキワ街についてももう少し知りたいのでパンフレットを要望する声も聴けたので、ミッドプラザに訪れたその足で商店街を散策してもらえたのだと思います。しかし、当日、ミッドプラザの来場数は25日117人、26日164人でした。これは、ブース会場よりはるかに少なかったことが分かりました。

スタンプラリー台紙



5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

元気いっぱいかわらまちサイエンスによる地域貢献プロジェクトのきっかけは去年10月に天満屋でやったサイエンス展で、当時参加した学生ボランティアたちはもう一回このようなイベントをやりたいという気持ちでこの行事の実施を検討しました。今回も子供たちと触れ合うきっかけや子どもたちと実験をするのが楽しい、考えていることが分からなくて困ったけど、いい経験になったなど、学生ボランティアからの前向きな意見と共に、また来年度も同じ活動があるならぜひ参加したいとの意見もありました。高松天満屋さんからも来年度の依頼があり、今回の経験をもとにさらに多くの集客と内容の濃いサイエンス展を開催したいと思います。



カルメラ焼を作っている風景



会場に来ていた子どもたちと学生ボランティア

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

イベント終了後に反省会を実施し、また、アンケートを集計することにより今後の課題がみえてきました。まず、一番に問題となったのはミッドプラザの位置がわからないという意見が圧倒的に多かったことです。スタンプラリーの台紙には地図を載せていたのですが、それでもわからない人が多かったのは事実です。反省会で出た意見の一つに知名度の低さがあるのではないかと考え、そこに焦点化して考えました。そこで、ミッドプラザを香川大学生がもっと活用すれば周辺の知名度も上がってくるのではないかと思いつきの例をあげてみました。まず、部活動、サークル活動の活動拠点として設定すること。これは、月に一度ある体育館調整やグラウンドの使用調整に付け加えてミッドプラザも調整をかければよいと思いました。使用すれば学生伝いに広がり使用者も増えていくと考えました。また、大学の講義での使用です。フィールドワークが各講義で増えていることもあり講義上の拠点としても使用可能ではないかと考えました。

まだまだ、瓦町を活性化できた！とはなかなか言いにくいところではありますが、来年度も今回の反省点を活かして人であふれる瓦町を作りたいと考え、この地域貢献プロジェクトを通して香川大学の良さをアピールできたらよいと考えています。

7. 実施メンバー

代表者 大西 弘訓（教育学部M1年）

構成員 王 珊（教育学部M2年）

香川 修慶（教育学部4年）

前田 恵子（教育学部4年）

原田 勇樹（農学部M2年）

安井 雅紀（教育学部4年）

内藤 まどか（農学部M2年）

橋谷 矩史（農学部M2年）